

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成29年度

上位の施策名称	施策I-2-1 売れる農林水産品・加工品づくり
---------	----------------------------

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	森林整備課長 山内寛之	電話番号	0852-22-5682
----------	-------------	------	--------------

事務事業の名称	林業種苗供給事業		
目的	(1) 対象	苗木生産者	
	(2) 意図	優良な種苗を安定的に供給し、造林者の需要に応える。	
事業概要	生長に優れた苗木を増産するため、苗木生産者に対し経営規模拡大を図るための施設整備等の支援を行う。		

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 苗木生産量（本数）	目標値	100.0	120.0	138.0	154.0	170.0	万本
		取組目標値						
	式・定義 苗木生産量	実績値	106.0	97.7				
		達成率	106.0	81.5	-	-	-	%
2	指標名 県産苗木の自給率（%）	目標値		87.0	90.0	93.0	96.0	%
		取組目標値						
	式・定義 県産苗木供給量（本数）÷苗木需要量（本数）	実績値	91.0	90.0				
		達成率	-	103.5	-	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	23,385	23,442
うち一般財源 (千円)	18,531	21,390

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 苗木生産量は、平成28年度は前年度と比較して約8万本少ない約98万本を生産した。
- 平成26年度以降に新たに生産を開始したコンテナ苗は、前年度と比較して約5万本多い約8万本を生産した。

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 苗木生産量は、目標の82%であった。
- 県内産苗木の自給率は、目標を上回る104%を達成した。
- コンテナ苗生産者を対象として、生産技術向上の研修会や先進地調査を実施するなど、苗木増産に向けた体制を強化した。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

- 近年導入したコンテナ苗については、出荷にいたらない苗が多数ある。
- 県が管理する県営採種園での採種量は、年によって大きく変動する。

### ②困っている状況が発生している「原因」

- コンテナ苗は、技術の取得・向上に時間がかかる。
- 種子穂を採取するための県営採種園は老朽化している。

### ③原因を解消するための「課題」

- コンテナ苗生産者に対して、技術指導や施設整備の支援を継続する。
- 県立緑化センターの採種穂園管理経費を確保する。
- 中山間地域研究センターのコンテナ育苗等の研究成果を早期に普及する。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- コンテナ苗生産者への技術指導を強化する。併せて、施設整備を支援し、生産の効率化や生産コスト低減を図る。
- 苗木生産者が計画的に苗木生産が行えるよう、需給調整協議会を通じ中長期的な需給見通しの情報共有に努める。
- 質・量ともに安定した種子穂を生産者に提供するため、県立緑化センターの採種穂園の整備・管理計画を見直す。